

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標	白石町内共通実践目標 <達成率95%以上>
本校の歴史と伝統を重んじ、連続と受け継がれてきた「誠」の教育と、たくましい開拓・干拓精神の維持高揚に努めると共に、徳・体の調和のとれた人間性豊かな有明東小学校の子育てを育てる。	① 学力の向上(教職員の資質向上を含む) ② 心の教育の推進 ③ 健康・安全教育の推進 ④ 学校運営協議会制度の推進(学校支援・地域との交流)	① 自ら進んで挨拶をする白石の子どもの育成(家庭・地域・学校で) ② 家庭学習や手伝いに進んで取組む白石の子供の育成 ③ 自力登校できる白石の子供の育成

達成度 A: ほぼ達成できた
B: 概ね達成できた
C: やや不十分である
D: 不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価

①学力の向上							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	●学力の向上	考える授業の創造	・「考えることを楽しい」と答える児童の割合を80%以上に ・授業研究会をそれぞれ行い、指導力の向上を目指す。 ・児童の「書く力」や「読む力」の育成を図る。	・課題に向き合い、児童が自分で考えたり、グループで話し合いながら考えたりする場面を設定するなど、考える楽しさを味わわせる授業作りを工夫する。 ・週に1回、朝の時間や放課後の時間を使って、「書く力」や「読む力」、また基礎的・基本的な内容の定着を図る活動を行う。	B	・「考えることが楽しい」と答える児童の割合が88%であった。 ・授業研究会を8回行い、考える楽しさを味わう場面のある授業作りが具体的にわかった。 ・12月の学習状況調査において4.5,6年生は国語の「書く」と「読む」が県の正答率を上回った。	・今後も「目指す児童像」を全職員で共通理解し、児童が自ら進んで学ぶ授業の工夫改善や学習環境の整備を行う。 ・「書く力」や「読む力」のさらなる育成を目指す。
教育活動	○図書館教育	図書館の授業活用	・図書館の図書を活用した授業を年1回以上全学級において行う。	・国語科で各単元の関連図書を活用した授業を行ったり、他教科においても積極的に図書を活用した授業を仕組んだりする。	A	・どの学級においても、図書室の本を活用した授業を積極的に取り入れたことで、読書への意欲が増し、選書に変化がみられた。	・司書教諭が、年度当初に購入図書のリストをあげ、その活用方法について、学校司書と担任教師との連携を行う。
教育活動	○読書	読書の奨励	・図書を年間100冊以上借りる児童の割合を90%以上に ・児童の「書く力」や「読む力」の育成を図る。	・全校で時間を統一して朝の読書タイムに取り組む。 ・毎日クラス別の貸出冊数を放送したり、月ごとの貸出冊数を担任に知らせるなどして、担任と協力して読書の推進に取り組む。	B	・貸出冊数100冊以上の児童の割合が85%、150冊以上の児童が53%であった。 ・毎日の放送や担任の先生の協力、またクラスで声をかけあうことで貸出冊数の増加につながっている。	・授業で活用できる資料を職員の先生方と相談し充実させる。 ・朝の読書タイムに集中できるような音楽を流す。 ・興味を引くよう、本の紹介の機会を増やす。
教育活動	○体育学習の充実	たのしい体育の実践	・体育の授業が楽しいと感じる児童の割合90%以上を目指す。 ・運動が楽しく感じ、進んで運動に親しむ児童の割合90%以上を目指す。	・めあてやふりかえりを意識した学習を行う。 ・学年間のつながりを意識できるよう、資料の共有を図る。	A	・体育の授業が「楽しい」「大体楽しい」と答える児童の割合が、90%を超えていた。体育の学習をとても楽しみにしており、活動にも意欲的に取り組むことができていた。 ・運動が好きな児童が多く、昼休みも天気が良い日は、よく外遊びをしている。	・今後も児童が、「運動が好き」「運動が楽しい」と思えるような体育の授業を展開していく。 ・できれば、外部講師に指導をしていただく時間を作りたい。

②心の教育の推進

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●いじめの問題への対応	いじめの実態把握	・「いじめをしている」「いじめを受けている」児童0を継続する。	・定期的に調査(職員・児童・保護者)を行い、児童の実態を把握する。 ・全職員で連携して全児童をみとめる。 ・児童理解連絡会を定期的に開き、問題事象の早期発見・早期対応を図る。	B	・児童アンケートを年2回実施し、気になる児童に対しては担任による面談を行った。また、週に1回の情報交換を行う場を設定し、早期に職員全体で問題を共有する体制を整えている。報告されたいじめ事象に対しても、関係者により素早く対応し、解決に向けた取り組みを行うことができた。	・情報共有できる体制やSCとの連携を今後も継続して実施し、児童間での問題を早期に対応できるようにしていきたい。また、未然防止の取り組みについて、今年度同様さらに検討していく必要がある。
教育活動	●いじめの問題への対応	学級集団の質の高揚	・Q-Uアンケートを活用し、「安心して学び合える」と答える児童の割合を90%以上に ・児童の「書く力」や「読む力」の育成を図る。	・授業や日常活動の中で、共に聴き合い学び合う場を意図的に設定する。 ・保護者と連絡を取り合い、共に児童を支えていく。 ・スクールカウンセラーなどの外部機関と連携しながら児童の困り感を軽減する。 ・Q-Uの活用及び研修会を実施する。	B	・「学校や学級での生活が楽しい」と回答した児童が93%であった。 ・困り感を持つ児童や保護者に積極的にスクールカウンセラーへの相談を勧めていくことができた。また、気になる児童については担任が個別に話を聴き、問題解決にあたった。 ・学級づくりについては、Q-Uアンケートを2回実施し、校内研修で支援を必要とする子への手立てを講ずることができた。	・配慮が必要な児童に関しては、今年度に引き続き、スクールカウンセラーなどと連携し、支援の方法を協議していく。 ・学級づくりの研修を定期的に行う。 ・今年度に引き続き、児童の内面を見つめる教育相談時間を設け、安心して学校生活が送れるようにしていく。
教育活動	●心の教育	自治能力の育成	・学級や学校の課題に気づき、みんなで話し合い改善してこうとする児童の割合を90%以上に ・児童の「書く力」や「読む力」の育成を図る。	・学級会の議題を考えることで、課題に気づく視点を育てる。 ・児童集会や縦割り班活動などの企画、運営をさせることで、自分たちの力でより良い学校生活にしていこうとする児童を育てる。	A	・落ち着いた生活をするために、代表委員会で話し合い、対策を講じた。朝の立腰タイムを設定したことにより、1日のスタートがスムーズにできた。また廊下に物を置くことで、右側歩行を意識するようになった。また、挨拶運動週間の設定や毎日の挨拶名人紹介で、気持ちの良い挨拶をする子が増えた。 ・どの委員会も各集会の企画、準備、運営などを担当し、よりよい学校生活にしていこうという工夫がみられた。	・6月に議題箱から学校生活目標を代表委員会で決め、1年間を通して自主的な活動ができるように仕向ける。
教育活動	●心の教育	挨拶の奨励	・いつでも、どこでも、誰にでも、気持ちの良いあいさつができる児童の割合を90%以上に ・児童の「書く力」や「読む力」の育成を図る。	・定期的に地区ごとのあいさつ運動を実施する。 ・各学年で児童の実態にあった挨拶のめあてを考え、遂行する。	B	・児童会の取り組みや月目標に合わせた学級での取り組みなど、学校全体で声かけをすることにより、校内ではさわやかにあいさつすることができた児童が増えた。しかし、日常的に、また地域でも「自分から進んで」「元気な声で」あいさつできている児童は限られており、課題が多い。	・運営委員会での取り組みや登校グループでの取り組みなど、意識の高まりが感じられる取り組みについては継続していく。さらに、意識を向上させる取り組みについて、家庭との連携を図りながら、検討していく必要がある。
教育活動	●心の教育	自己肯定感の醸成	・自分の良さに気づき、自分を大切にしようとする児童の割合を90%以上に ・児童の「書く力」や「読む力」の育成を図る。	・道徳の時間を核としてすべての教育活動において児童の心を耕していく。 ・帰りの会などで友だちの「いいところ見つけ」をし、互いに認め合う場を設定する。	B	・「自分の良いところがある」と回答した児童が87%であった。 ・道徳の時間や人権集会を通して、自分のよさや友達のよさに気づき、いろいろな場面で相手を認める行為が見られるようになってきた。	・各学級で、子供一人一人のよさに目を向けるような場面や機会を意図的に設け、自己肯定感を高める。

③健康・安全教育の推進

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●健康・体づくり	望ましい生活習慣の形成	・「早寝・早起き・朝ごはん」を推奨し、朝食をとって自力登校できる児童の割合を90%以上に ・児童の「書く力」や「読む力」の育成を図る。	・健康観察表の裏に、「朝食の喫食」や「自力登校」について確認する項目を加え、声かけにより児童に意識づけをさせる。 ・学級指導や学級活動・保健・家庭科等の授業の中で日々指導と声かけをしていく。 ・「保健だより」「食育だより」等を発行し、「早寝・早起き・朝ごはん」の大切さについて家庭に啓発する。	A	・アンケートにより、「朝食を全く食べていない」児童はほとんどいない。朝食喫食率は全体で99%と高い結果が得られた。特に高学年においては、家庭科の学習により栄養のバランスを考えて食事を摂るようになってきた。 ・「自力登校」は、91%の児童ができており、十分に達成できている。	・今後も栄養バランスの重要性を強調した食育指導を行う。 ・自力登校ができていない児童には、家庭と連携をとり声かけを行う。

④学校運営協議会制度を推進した学校づくり

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策
学校運営	○地域・家庭との連携	地域貢献	・地域行事等への児童の参加率を85%以上に ・児童の「書く力」や「読む力」の育成を図る。	・地域行事や空瓶回収等への積極的な参加を呼びかける。 ・学校運営協議会において地域との連携推進について協議していく。	A	・地域行事等への児童の参加率は95%であった。今後も積極的に参加を呼びかける。 ・学校運営協議会委員との連携により、児童の活動がより地域のことを知ることのできる学習へとつながった。	・学校・保護者・地域の協働体制を随時整えていく。
学校運営	○地域・家庭との連携	情報の双方向発信	・「学校や児童の様子が分かる」「学校は相談しやすい」と回答する保護者の割合を90%以上に ・児童の「書く力」や「読む力」の育成を図る。	・学校だよりや学級だより、HP等を活用して学校の教育活動に関するあらゆる情報を継続的に発信していく。 ・困ったことや悩み等が相談しやすい体制を整えていく。	A	・学校や児童の様子が分かるように情報提供していること回答した保護者が97%であった。 ・学校に連絡が入った学校や児童のことについて、担任を中心に素早く対応していった。	・学校行事の際の児童の活動の様子や学校の取り組み等を定期的にまた、継続的に情報として発信していく。 ・スクールカウンセラーと連携した相談体制を整えていき、保護者へカウンセリング希望の周知を確実にする。

⑤業務改善・教職員の働き方改革の推進

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	業務遂行の効率化に向けた取り組み	・各担当間の業務内容の情報共有を図り、効率的な業務遂行の取組を推進する。 ・定時退勤日を設定し、実行することで多忙感解消につながるようにする。	・共有フォルダを利用し、サーバー内のフォルダの整理、データ蓄積と必要な様式、業務に必要なデータの共有化を行い、効率的に業務を行う。 ・週1回17時40分退勤の定時退勤日を設定し、見通しをもって業務を進めていく。	B	・定時退勤日を設定したことで、職員間においても定時退勤の雰囲気醸成が醸し出され、実行されるようになってきた。それに伴い、時間外勤務時間の縮減にもつながった。 ・共有フォルダ内のデータ蓄積並びに必要なデータの整理等、業務の効率化に向けての取り組みが十分できなかった。	・業務の効率化に関わって、さらなる学校行事の精選を行う。 ・サーバー内の共有フォルダを業務の効率化につながるような使いやすさのものに変えていくことができるよう働きかけていく。

4 本年度のまとめ・次年度の取組

全体的に良好な評価であった。学力向上の取組では、研究主任及び学力向上コーディネーターが中心となり取り組んだ。それぞれ研究主題に向けた研究の推進及び全国・県学習状況調査結果の細かい分析から対応策の検討、そして学校全体での共通理解・共通実践に取り組んだ。今後も児童の実態把握から、学力向上につながるよう指導法の工夫・改善を継続して取り組んでいきたい。あいさつの励行では、地域の中でも誰にでも自分からあいさつができる児童を育てていくために、積極的に家庭や地域に働きかけながら、継続的に指導していきたい。保護者や地域の本校教育に対する関心は高く、授業参観や行事等への参加が多く、様々な意見をいただけてきた。今後さらに、家庭・地域との連携を深めながら、本校教育を充実させる取り組みを継続していきたい。

●は共通評価項目、○は独自評価項目